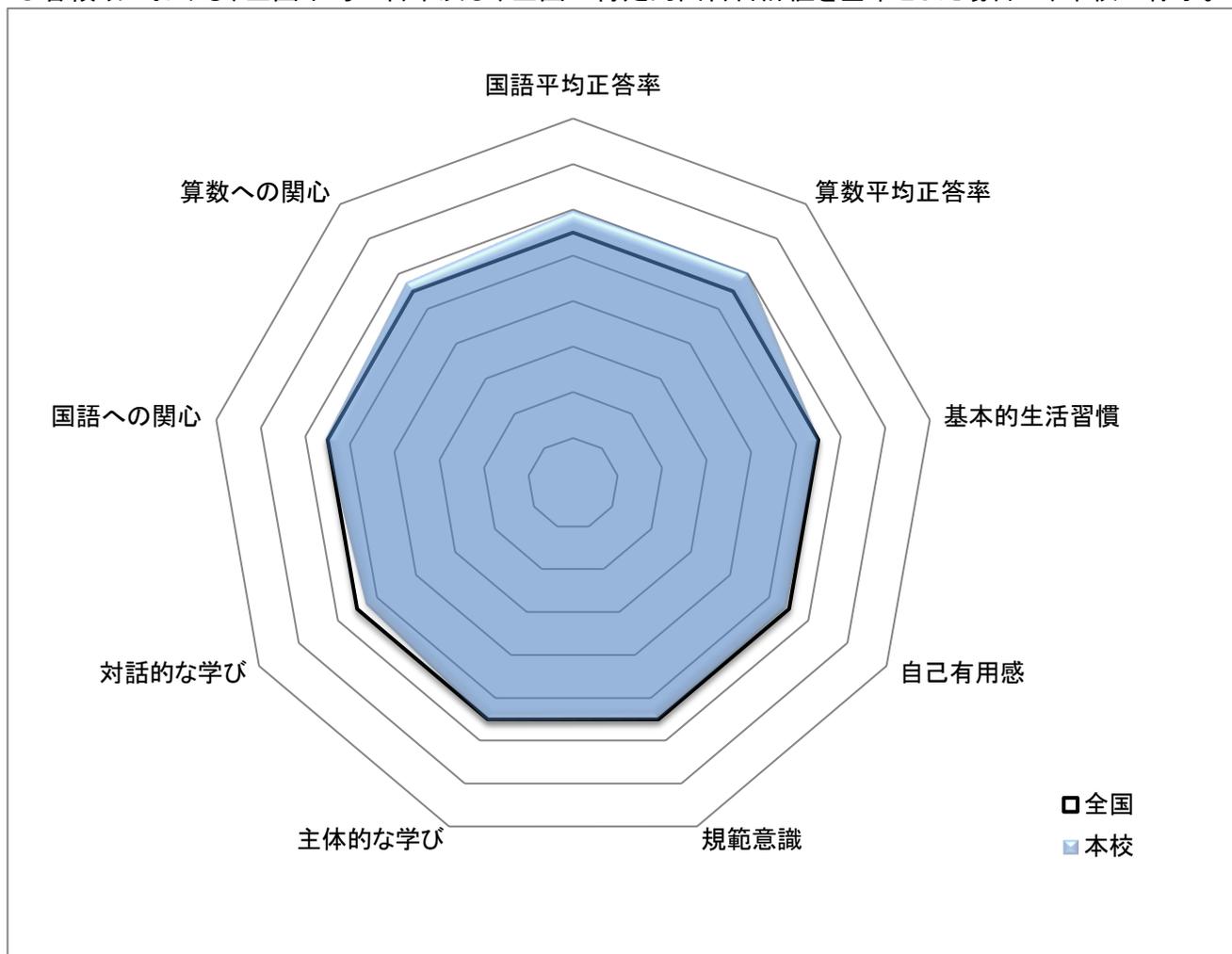


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・国語と算数の基礎的な学力については、本校の平均正答率が全国よりも上回っており、定着している。
- ・国語と算数への関心も全国平均と同じか、上回っている。
- ・主体的な学びは、全国平均と同じほどであるが、対話的な学びが若干下回っている。
- ・基本的な生活習慣や規範意識は、全国の肯定的な回答とほぼ同じ割合である。
- ・自己有用感、全国の肯定的な回答より若干下回っている。

《授業改善のポイント》

- ・学習の基礎的な内容や学習への関心はあるので、さらに主体的で対話的な学習となるよう授業改善をする必要がある。
- ・主体的な学習とするために、課題解決に向けて児童が自ら考え、自分から取り組めるような場面を用意し、自分の考えをまとめていく展開を実践する。
- ・対話的な学習とするために、校内研究でも授業改善に取り組み、授業の中で児童同士が意見を伝え合い、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付くよう展開していく。
- ・道徳や学級活動でも、学級やグループで話し合い、対話の場面を設定すると共に、自己有用感を高めていく。
- ・学級活動では、学級生活をよりよくするために話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決める実践を積み上げていく。

《チャートの特徴》

【学習面】

- ・国語と算数の平均正答率は、全国平均正答率よりそれぞれ、6.3ポイント、6.6ポイント上回っている。
- ・国語への関心は、全国を1とすると本校は1.01となり、ほぼ同じである。
- ・算数への関心は、全国を1とすると本校は1.05となり、若干上回っている。

【情意面】

- ・対話的な学びは、全国を1とすると本校は0.95で若干下回っている。
- ・自己有用感、全国を1とすると本校は0.99で、若干下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・児童が、自分にはよいところがあり、将来の夢や希望をもつことができる機会をつくる。
- ・生活リズム週間も活用し、規則正しい生活習慣を身に付けていく。
- ・学校ホームページや保護者会等で児童の実態を公表し、学校と家庭、地域で連携して取り組んでいく。
- ・学校応援団と連携し、読書に親しむ児童を育てていく。